

human

No233

2011/9

医療を通じて人と人とのふれあいを広めるために
ヒューマン(人)と名付けました。



「大賀蓮」

救急指定・労災指定病院	さくら総合病院	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129 (0587)95-6711(代)
老人保健施設	さくら荘	愛知県丹羽郡大口町新宮1-96 (0587)95-6722
訪問看護ステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8623
ヘルパーステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8026
居宅介護支援事業所	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8027
デイケアセンター	御 嶽	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129(さくら総合病院2F) (080)5294-5728
有料老人ホーム	太郎と花子	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10 (0587)95-0111



<http://www.ijinkai.or.jp>

E-mail: info@ijinkai.or.jp

被災者の心

院長 小林 勝正

東日本大震災による行方不明者は被災後4ヶ月を以て未だ7500人が残されている。全国報道されていない事ではあるが、7月第1週をもって、岩手県、宮城県の大規模遺体収集活動は収束した。福島県については、行方不明者が前2県に比べて少ないこともあり、6月中旬を以て終了となった。

6月16日17日に福島県において法医学会が催されたので、その前に、警察庁からの依頼により宮城県の遺体検案活動に参加した。6月12日夕方に宮城県警察本部に赴き、13日からの宮城県における検案活動の会議に加わった。6月

13日の早朝に宮城県警本部より警察車輛にて歯科医師2名と私とで石巻に向かった。仙台から石巻までは、東北自動車道を使っても片道1時間半の行程である。震災後、東北自動車道は応急修理の後、開通はしていた。しかし、橋梁をまたぐ前後では10cm以上の段差があり、およそ高速道路としての安全は確保されていない。路面自体もうねっているが、福岡県から派遣された福岡県歯科医師会の先生方にとってはこの高速道路のゆがみが非常に奇異に感じられたようである。

石巻市における遺体安置所及び検案場は3年前ま

で使用されていた大きな青果市場であった。当然、水道は止まり、空調施設もない。トイレも使用不可で、屋外に建築用簡易トイレが置いてあった。警視庁から派遣された警察車輛が並び、警察官たちもこの簡易トイレで用を足していた。よって、1日中決して便が出ないように自分の体をコントロールしないと用便を足すのに難渋することが予測された。これも非常に緊張を強いられることになった。

運び込まれた遺体は、震災後3カ月たち、百ヶ日前であったにも関わらず、白骨化することなく検案できた。最初の遺体は女川から搬入されたが、海上で発見されたという。遺体の状況から判断するに、津波の引き潮により海底に引き込まれ、ヘドロの中に埋まっていたようである。おりしも

大潮のために潮が満ち、海底のヘドロの中から海上に浮かびあがったものと思われる。百ヶ日を前に望郷の念で家族の元へ戻ってきたのであるうか。体格の良い壮年の男性であった。石巻市内で発見される遺体は、瓦礫の下へのドロの中から発見されるため、ヘドロによる汚染が強く、黒色化しているが、これはヘドロの中に含まれる重油による着色と説明された。会場に運び込まれたこれらの遺体を、警視庁から派遣された警察官が消防ホースから出る水で黙々と洗い続ける。着衣を着たままで、一応きれいになった状態と判断された時、遺族にも見せるための写真が撮影される。その後、着衣を脱がせ、再度、体だけを警察官が黙々と洗う。台の上に流れ出たヘドロが音をたてて床に流れ落ち、遺体はきれいにされ

ていくが、ヘド口の色は容易に落ちない。こうして、一応検案できる状態にされた遺体を私が検案し、その後、歯科医師2名が歯型鑑定を行う。それまでに警視庁の職員が非常に巧みな技術で指紋を採取していた。歯型鑑定が終わると、遺体は、別棟に運ばれ、納棺される。所持品がお棺上に置かれ、着衣の写真が添えられる。福島の時と異なり石巻では避難所が近い家族は毎日遺体安置所に通い、遺体が出ないか確認に来る。どんどん家族の元へ帰って行く。中には1mにも満たないお棺があり、乳児の遺体と思われたが、翌日には家族に引き取られていた。

震災後3カ月が経ち水が出ないと言っても国道の向かい側にはコンビニが再開していてペットボトルのお茶や弁当が手に入った。石

巻市を見下す高台の日和山に神社があり、ここより津波に襲われた石巻市が一望のもとに見渡すことができた。眼下に被災した石巻市立病院があり、3年前に移転した石巻赤十字病院のみが医療の活動拠点として生きていた。しかし、この高台にも、風に乗って海産物の腐敗した臭いが漂っていた。人の腐敗臭もこれではかき消されてしまふであろう。女川では、高台の町立病院の1階までの全体が見下ろせる町立病院の駐車場から見ると、いかに津波が町をかけたことが一目瞭然に見ることができた。又、5階建てのビルが根こそぎ横倒しになっているサマを見ると津波の力の大きさに驚かされる。その後、NHKの特集で女川のビル横転について語られていた。それによると、地

震による液状化により、地中に打ち込まれたコンクリート柱が根こそぎ引っこ抜かれ、そこへ津波の横からの力が加わってビルは横転したという。それで、この現象が納得いけた。

気仙沼は仙台から片道3時間の道のりであった。途中の道の駅で弁当とお茶を買い、東北道を一度岩手県に入ってそれから南下する。海沿いの国道やJRが全て壊滅的被害に遭い利用できないためであった。気仙沼の漁港は石巻より更に臭くまるで腐乱死体の横に立っている様な臭いであった。短期間訪れる我々は何も言える立場には無かった。警察も黙々と仕事をしている。目的は唯一つ「犠牲者を一人でも多く一日でも早く家族に帰す」である。しかし、今回の検案では福島では無かった記載が棺に付けられた。「完

全遺体」と「部分遺体」との区別である。「手・足1本でも帰ってきて」と云う家族の願いのように遺族にとつては遺体の一部でも死の証として確認したいとの思いである。我々もその想いを理解し、同じ気持ちで職に当たった。しかし、まだ不明者は宮城県で5千人にのぼる。当分の間、割り切れない気持ちの被災者が更に今夏の「暑い夏」を耐えるのを考えるとき、我々はどれだけ努力しても決して贅沢を言うてはならないと思う。こうした経験をすると地元に戻って来ての小牧・春日井・犬山などの検案はちよつと近所へ行く位近く感ずる。本当に良い経験をしたと思えてならない。

乾坤一擲

消化器外科肛門外科 佐藤知洋

先日、生命保険の契約をしました。妻は嬉しそうでしたが私の気持は複雑で憂鬱でした。契約が終わりちょっと変わった所でランチを食べることになり、グランドピアノを自由に弾かせてくれるレストランへ行きました。食べるためと言うより弾くために行ったのですが店内は満席で客はざっと50人位で、しかもプロが既に生演奏中でした。気軽に弾ける雰囲気ではないと感じ食事だけで帰ろうと思ったそのとき妻は「ピアノを弾いてもいいですか?」と店員に聞きOKの返事がちょうど出たところでした。もちろん妻ではなく私に弾かせるためでした。店員は快く「どうぞ」と言い演奏中のプロにすぐ止めるように言いました。引込む訳にもいかず、益々追いつまされてしまいました。

実は最近娘がピアノを習い始めるのをきっかけに、私も20年ぶりにピアノの練習を再開しました。しかし再開してたった3カ月、楽譜すらない。記憶力に自信はあってもこの場面ではうまく弾ける訳がない、恥をかかただけだと考えたら緊張で手が震えペダルを踏む足も震えました。言い訳ではありますがこのピアノはハンドメイドの超高級品で鍵盤が微妙に歪んでおり、緊張している私には普段弾いているピアノとは全く別物に見えました。プロが弾いた直後なので気負いも一層拍車をかけました。まずベートーヴェンの「悲愴」を弾き始めましたが、問えるは、忘れるは、音が抜けるはで直ぐ中断してしまいました。悲愴が悲惨になった瞬間です。「ここでやめたらもう立ち直れない」悲壮な思いで、2曲目にショパンの「前奏曲」を弾き始めました。数か所ミスタッチしましたが概ね弾きこなせました。極度の緊張で頭が真っ白でもショパンは弾きやすい?緊張が限界を超えたので無心の境地に立てた?何とか自尊心をぎりぎり保てましたが、これまでの過剰な自信はズタズタでした。舞台から降り席まで歩く距離が長く感じられ、胃が痛くて立っているのがやっとでした。プロのピアニストから「どうでしたか」と感想を尋ねられ「ピアノは最高に調子がいいけど演奏が不調でした」やっとの思いで返事が出来ました。店員さんも「なかなか難しくて固い演奏でしたね」と感想を言ってくれました。恥ずかしいという思いより不思議な高揚感を感じていました。「もっとやれるかと期待していた」妻の一言は厳しかった。寿命が縮みました。

平日頃の私はスケート選手が転んだ時など「練習が足りない。精神面で弱い」、冤罪事件の報道では「犯人でなければ自白などする筈がない」などと他人には厳しい考えでしたが自分も弱い人間の一人だと気付きました。もっと他人にやさしくなろうと思いました。医療の場面でも謙虚な気持ちを忘れたら大変な窮地に立つ可能性があるかと痛切に反省します。しかし失敗の直後にもう一曲弾いて上手くいくところが私の強いところです。平常心でいるためには場数を踏んで慣れることも必要です。極度に緊張したら当然失敗するでしょう。他人にも過度に緊張させたら当然失敗するでしょう。「謙虚な心とやさしい心を忘れてはいけない」色々考えることが出来ました。

医療現場における新たな情報媒体

情報部 森本泰次

先月の8月中旬より新館コンドル1階に、そして本館には5月中旬より2台のディスプレイが設置されています。

これらはデジタルサイネージと呼ばれる電光掲示板で、病院・医療従事者と患者さんやご家族の方を「繋ぐ」画期的な媒体であり、従来の紙媒体での情報に比べ動画や写真を多用出来るため、より分かり易く正確な情報を発信する事ができます。

私の仕事の1つはサイネージに流れる映像を作成、配信及び管理する事です。病棟の説明、災害支援活動、Dr.カーの活動、脳卒中検診、乳がん検診、各センターの紹介、健康を守る教室の告知、栄養素について、太郎と花子の紹介など多岐に渡ります。各科の先生方達や各部署の方々から専門知識やご意見、そして貴重な体験を伺い、患者さんに分かりやすく的確に情報を伝えられるよう作成しています。同時に、患者さんが求めている情報は多種多様で、見やすいと感じられるデザインも十人十色なため、様々な方向性を打ち出し視覚的にも幅を持たせた情報発信を心がけております。

先日、ご老人が会計を待たれている様でサイネージに流れている災害支援活動の番組をご覧になっていました。そしてしばらく経った後、受付からお声がかかり会計を済まされたのですが、再度席に腰をかけ、続きをご覧になった後に帰られました。患者さんがサイネージに映しだされた情報を真剣な表情でご覧になる姿を拝見すると感無量です。

ふとした瞬間、何気なく目に留まったサイネージが、来院された方々の有益な情報となり、各検診や院内活動への参加に繋がり、患者さんが病院をより身近に感じて頂ければと思います。そして、当院の貴重な院外活動も発信できるデジタルサイネージは、まさに病院・医療従事者と患者さんを繋ぐ「架け橋」だと信じています。

医療の現場において今後ますます重視される、病院・医療従事者から患者さんへの情報を、これからもより分かり易く発信するよう努めて参ります。

第1回

さくら総合病院 市民公開講座

『地域のために総合病院ができること』

開催日：10月1日(土)
 時間：受付 13時30分～
 開始 14時(所要時間2時間程度)
 場所：大口町健康文化センター
 「ほほえみプラザ」4階
 TEL:0587-94-0061

参加費：無料
 事前申し込み：不要

講演内容：①開会の挨拶…………… 院長 小林 勝正
 ②放射線被ばくについて～医療被ばくと福島原発被ばくについて～
 …………… 放射線科 池田 勝利
 ③脳卒中あれこれ～脳卒中の予防と発症したら…～
 …………… 脳神経外科 秦 誠宏
 ④高齢化社会に伴う社会福祉のあり方～現状の今後の課題～
 …………… 太郎と花子 土本 剛志
 ⑤運動について～どうしたら上手に運動が出来るのか～
 …………… 理学療法士 磯村 隆倫
 ⑥閉会の挨拶…………… 外科 小林 豊

その他：飲み物を無料配布致します！
 血圧・血糖測定コーナーもございます！
 是非、ご参加ください。



お帰りのバスについて

●大口町コミュニティバス

北部ルート 柏森駅方面16時20分発
 南部ルート 布袋駅方面16時18分発

●さくら総合病院巡回バス

楽田駅方面16時20分発

主催：さくら総合病院
 お問い合わせ：さくら総合病院 医療連携室 0587-95-0015
 HP URL: <http://www.ijinkai.or.jp>
 Mail: sakura-renkei@ijinkai.or.jp

※9月、10月は毎週第4土曜日に開催しています健康を守る教室はお休みします※

医療法人 医仁会に入職して

さくら総合福祉センター 有料老人ホーム「太郎と花子」 事務長代行 清水 敦

私は、4月に医仁会 太郎と花子に入職し、4ヶ月が経ちました。
 今は、事務長代行という職位に就かせていただき、大変光栄に感じています。
 今まで、医療介護の世界に踏み入れたことのない私でしたが、今までで一番楽しく仕事をしている毎日です。
 私は、祖父が「30歳なら30歳なりの楽しさがある。80歳なら80歳なりの楽しさがあるよ!」と言ったのが、私に対しての最後の言葉でした。
 それから、人生の最期に楽しいと言ってもらえる、そんな職場で働きたいと思いこの世界に足を踏み入れました。
 毎朝、私のことを親分と言って話しかけて来てくれる入居者の方がいたり、ご家族の方で、本当にお世話になって、ありがとうございます。といて帰っていかれる方もいます。
 私は、幸せだと感じています。そしてこの幸せを倍にして利用者様にそして家族の方に返していきたい。今はそれだけを考えて仕事をしています。
 私たちが利用者様に感謝することにより、感謝が感激を与え、感激が感動を与える。感動を与えて初めて「楽しい」と言ってもらえると思います。
 全職員一丸となって、太郎と花子を盛り上げていきたいと考えていますので、これからも、どうぞご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

診療科表

平成23年9月1日現在

	午前 9:00~12:00							午後 5:00~7:30												
	外科	内科	整形外科	脳神経外科	小児科	皮膚科	耳鼻科	泌尿器科	婦人科	眼科	外科	内科	整形外科	脳神経外科	小児科	皮膚科	耳鼻科	泌尿器科	婦人科	眼科
月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
火	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
木	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
土	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

- ※1 休診日もございます
- ※2 第2、第4 は11:30までとなります
- 診療時間に関しては受診されます診察科目により異なります
- 不明な点がございましたら職員に確認してください
- 診療日が変わる場合があります ご了承ください

機関紙 発行 医療法人 医仁会 電話 0587(95)6711(代)
 human ビューズン さくら総合病院 発行年月日 2011年9月1日
 No.233 丹羽郡大口町新宮1:129 発行部数 350部